[illegible]

右

[illegible]

右閑窓擬寄合依無類幸石能按会

三十六人大歌合 弘長二年九月

左方

三品親王 宗尊

入道前太政大臣 実氏

関白前左大臣 実経

前摂政左大臣 良実

前太政大臣 公相

左大臣 実椎

九条前右大臣 忠家

前権僧正

右方

前内大臣 基家

衣笠前内大臣 家良

沙弥顕恵

土御門院小宰相

権大納言通成

三品親王家小弁

鷹司院帥

僧正隆弁

沙弥縁空
前大納言資季
皇后宮大夫師継
按察使顕朝
中納言為氏
源具氏朝臣
法印実伊
沙弥寂西
院中納言
沙弥融覚

沙弥如辯
藤原基政
権律師公朝
平長時
侍従行家
藤原経清朝臣
素暹法師
平政村朝臣
藻璧門院少将
沙弥真観

中納言ときの我おれくらふの春まつのきつゆ
おもてをそれつるきしまの月れ秋ちるしぬ
ゆふ〳〵のもとに物となるまつうるをそ
ちをしみつるときまへしまるむしの人麿志
人おもてひとりとしきろの宮歌家隆ふ及て
雅俊はりまちをるまを芦原のみちふとひ
ゆひはくくしみ手をきくをけ入て志ゆきをの
つ物をもををとをるをくをの中ゆををるをの
をるゆふ海ありをとみくををををしひをを
きををを物をををををををををををををを

浄土の門てりしらくてるまつかの道てしめしくたくさ
道ある心をしらしめんとゆるせるまことひろかく
きて此道と実のなかを備山にたてるあらはれきさしは
そとさらにかくく御代は道の字ハあらけいよくたゝき
まのあり志のハあ道ゝ字を東路の逢坂山あらしをを
紀ひかし私家の浦波まの月みをてらせるこ紀
なき道ハ関のをんかしもしこころをはなとうるて都は
うらにあ河め志るあるるあまり思いける法人のこのす
をさしめくらめにおゝ首をとつゝふへまきましをま
紀にたまへといるをひとまにあらしくまてまる私意ハ成

先ひらる道たる根をたと於へし五志ゆうのよをて船さか
赤猫為猫赤光為光の法をもゝ作ある人々道ハ露まし
為に癩狗の塊と書ひ籾蝋の焼をとゝのすたくまで
なすらひくためし卅一字のわたるをとうひ法くこ千
か人とかたあそて法のあるまにおな大綱をは心て志まし
くりめくるまりすそにたひのさ私道のつきおへてしらく
今ぬいさなをひとうのひとすに河のをもとあのは海にこの
ある中に一番のちの家私をひ志てひさく道てるさまのくへる
ゆすむよきにくちとる水なまのかにおの嵐くつく
してことのむいるの端をつたへ行のまはを

ちかきころ女の色むくさの旅ねを見き人の言葉にかゝりて
うちに代々の御集に残れるつゝみきおいの跡を尋ね
まことにさとこそ君の御世をもあふぐべく候のみなれ
道をまねきの御代々の家の歌ともあまたをも一巻の
たかき道の塵に昇る浦のもくずを拾ひて道にむかはれ
まさに此君の御時にたとひ千載の後もこの道をさかへしく
むかしの人の道をまもりあふぐ和歌のなるべけれとさらにゐ
らましかは時に弘長二年九月の言葉
を撰ぶ道をこそ志るしおくりぬ

一番

左　　　　三品親王

あれとこそきみの光の杜かけて今宵ぞ照らす月も秋やまさらん

右　　　　前内大臣

明らけき御代にあふみの照る月影よりうへなき人やおもひ知るらん

左

夜をかさねおくしもさえぬ露に今ぞいさゆる照る霜か

右

秋草のかよふ木の葉をさそひてや野をわけつゝ人にみせつる

左

きりぎりす鳴や横雲てらす月の中に聞とゆふ人

右

月清の入海ゆけて出るとけはる湊ふきこす秋のかぜ

左

きこゆる海の小舟をえらるゆゝしの湊の秋のゆふぐれ

右

左の歌イ

秋の面に相のこゑ聞るゆふぐれに出るとて待よまれる

左

みをすてゝ人やうらん底ならぬ伏見の秋のよの月

右

ゆふぐれの雲の星は出あまの子のよまぬ人にとゝまる舟

左

白雲のまぎれの雲のまぎれにてくるわ秋よくる霧

右

山人の出るかゝの秋の露繁る露や秋はにわくらん

左

ほのぼのとをかるゝ人ぞ出ぬ人のこゝろ

右

山ぶきいろ木ゝをけるゆふぐれも秋といふこゝろ

左

[illegible]

右

[illegible]

左

いとひとをはをつゆとなる仕ふとなる心ゆるとき

右

をやふうき人やいつきたるのみを知るあハ少れもけも

左

こはなにとなるとはをを極きいつるるるふ於とを

右

[illegible]

二番

左

入道前太政大臣

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

年[illegible]

左

村雨ふる秋の露のいろ葉はいとゝ紅葉を折

右

はつかくさやとを知れさる月毎よりてはよはの山嶽のいろふ

左

吹ちらす嵐にうつる山城のこのもの森の秋はいかを

右

夕さるゝ小嶺吹ちらす秋の雨ふる書集うるふ野の小萩

左

郭公鳴ぬ名ハ山のけ春日野に咲る古枝の秋萩の花

右

いとゝ濃の色のいろ〳〵なるよりそ中る秋の三月

左

湊川秋の色そ紅葉る山ゝ何面ゝ秋

右

ちらす紅葉を深く山ゝ秋ぬをしねりや俗らん

左

唐さゝ稲葉の色乱れる比出の京か何面そゆく

右

うつる雁あるこのの秋ひのゝ附面はねにうつ

左

右

左

右

左

右

左番

左　関白左大臣

右　沙弥頼惠

左

右

さえ物のあはれを思ひ春はえりのふもとの
左
つるのからの舟の動のまを幾ちとをたをたをのほ
右
ちをのりを本のまの月の新たやこれ事をうん
左
梓ちくるふとはぬ日数を心はやうみくます
一右
岩にあるためとは不数はつるふの見れさまの色
左

みとのまをてつ我心をあ絵神をたるしん
右
花の数のうきをとたるまれのうまたを心れ
四番
左
石橋政大臣
石多の翻ようるる芦糸の嶺ハまをあたるれるん
右
山吉河院小宰相
あはをつぬ我みるを橋花所ろをそをハ歩き
左
ひくはるるまはくいふをるは林をはるは仮張ん

右

我たのりなく出の秋よあるとなるも秋の山のやまとの

左

行人のむれ〳〵よるとよりてみおくるゆくすゑのいと

右

ちるまちいるさのの夕雲にたなびくやこのはれくも

左

松ちかくい浦にきをけるとふ苔とるとて

右

みのうさを歎ふあまる海ちとのくもいとなれ

左

河面とのの夜をみぬきをけく氏と思ふ山に

右

ちをくて時きの少の波をもくくてうるものをもうれ

文番

左

おもひ出たる

きちうのふくふ和月のうめしやゆのこ宮に鶴るん

右

橘大納言通成

ひく秋のひかりぬ新の月よ又万代のあとて行末ふる郷

左

[illegible]

右

秋の夜は次ぐ[illegible]月やゆきかへるらん

左

[illegible]

右

[illegible]の[illegible]の演松[illegible]

一左

[illegible]

右

[illegible]の[illegible]日[illegible]の谷[illegible]の岩[illegible]

左

[illegible]次歳の[illegible]やの[illegible]の[illegible]

右

[illegible]年[illegible]ためしは今そ[illegible]の[illegible]ねて[illegible]の松[illegible]

六番

左

[illegible]

[illegible]の[illegible]の演の白[illegible]

右

[illegible]の[illegible]る秋のよの月

三品親王家小[illegible]

いのふやそ[illegible]の[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

七番

左

九条前右大臣

大宮ふく吹くる風は白つゆの[illegible]

右

鷹司院帥

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

八番

左

[illegible]

僧正隆英

右

冨士の根に咲る花はおろそかふ時もなくぬ中ゝさくらかな

左

三河ものちはやもあきをそこれとそなつかしき秋の

右

うきとしる涙のとこそいとはれく神もあはれ世の秋

左

物思ふそ河もの重はあきはの秋のこゝろ

右

秋きそもいとゝ高はの家はあはれこゝろ苦の秋ふ

左

萩の葉のそよめくはるをなゆふ春をうつす風のゆふ八

右

つゆ多ふ袖ぬれぬるもおきうそ

左

ものの面はいとゝ秋ふ世ふ秋ふ舟のゆくへ

右

秋のくいあらるる月とうるさに出はるをそ秋はあ

九番

左

沙弥縁空

春毋はあるねきはの代のうちとは松しゆうしゆうる物

右

沙弥如舜

雑俊うちうしぶね根をかたけるうちにる秋月夜子

左

山はたのはつさきやのうちうしぶあくるの月の秋

右

うしぶにるる新を初はさきたてゝ河面うしぶはくるしはたの月

左

初ことにうしぶうしぶうしぶをきて後はうしぶ河のうしぶ

右

中〳〵はまぶ新するうしぶ世新をたかうしぶたちうしぶやい

左

今はうしぶうしぶ杉本は松山はうしぶの葉をうしぶあはめ

右

はうしぶはうしぶちうしぶを河面はうしぶ独はうしぶ月はうしぶ

左

うしぶうしぶにはうしぶのいうしぶ大はうしぶのうしぶ独はうしぶ人はうしぶ

右

型のいとはうしぶ毋はうしぶ

十番

左

おほぬさ須賀雪

ふるゆきはしまきやたゞふぬぬんなをもけれる庭恋次

右

後京基政

おるとうしと思ひもそまきれるまうるこふねもうく

左

あし曳の山下風の河のまに吉原うくて秋いきめん

右

天河なるのうきはしやもの紀秋と数をまに消をまに

左

独ねぶ行まるひの秋の夜をはつねてあ庭を見ん

右

山里に河しらんのきうあやとみをはきはれるん

左

夕ほや毒川をうたちぬんるたちのつてなよるるれ

右

つくとそひしうとあ世界をうきひあ秋のうしん

左

白あの我衣もとかうきそ独やねれんうをにしひ

右

ムようそひいうもあそるきうぬるのれうや急しき

十一番

左　皇后宮大夫師綱

ひくかるる別を志るしとも春やゆくらん

右　権律師公朝

とのもる越後の花はまさりいそのゝ春は

左

まれりる時は五月雨小田の早苗をつかいそ

右

五月雨はるるつけこゝろ井筒ふるる水はた

左

こうるゝ心をそこゆゝの底に堂は積る日数の末のゝ月

右

長月の菊の志ゝ露とはるゝ袖のみ

左

はるゝ俺ゝ志ゝはゝ俺ゝ志ゝはゝ俺ゝ志ゝはゝ月

右

春日野ゝの野ゝゝ鏡ゝ志ゝ俺ゝ志ゝ月

左

うゝゝゝゝのゝにゝゝゝ夕

右

南人のあしたやのとをたゝかはるのこゑあり

十二番

左　拾遺後題朝

雲をもまきてうゑ所屋の松ゝとの鶯やとをわるん

右　平長時

一枝の梅ゝうゑんの鶯歌はとゝ行のうゝぬ人乃きゝ

左

梅花匂やいのこゝろまきはゝきさゝ山きつゝ鶯ゝ

右

春雲かとゝとゝとゝ山のをゝをゝ見る秋の月新

左

まゝこゝぬ山ゝ新色ゝ行かゝ山ゝまゝゝゝや未霧ゝる

右

志のひゝゝと消ゝひゝゝゝ新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

左

みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右

吹かゝに雲をかゝし乃紫ゝる嵐は山ハ行ゝるゝん

左

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右

[illegible]

十三番

左　　中納言為氏

[illegible]

右　　俊成卿

きてみるとはふかくもやらん秋者ふのこ月ハとをを

左

今よりの秋のあらしハ誰夜をとるあきてきぬる

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

十四番

左

天津乎乍乍秋代の春はうさたつ雲の

右

源具氏朝臣

[illegible]

左

[illegible]

春とや月は花をもとめん

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

左

[illegible]ける人のこの紫[illegible]なと侍のあるを[illegible]

右

何とのゝ人も今はうら[illegible]へきこのゝ[illegible]

十五番

左

清原実俊

うる人の[illegible]春あ[illegible]

右

[illegible]

宗冨法師

左

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

左

冬海の月[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

こぬ人をいくらの月ふるまん我新よのゝ枕ゝて

左

[illegible]

右

[illegible]

十六番

左

[illegible]

沙弥寂西

右

[illegible]

藤村朝臣

左

秋の野ゝ[illegible]麻の根ゝ[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

きぬ〻の秋ふゝ月新ゝ誰[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

十七番

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

右

[illegible]

左

[illegible]

いとをゝく結ふてこたる我こゝろとそ人のうまれるゝん

右

つゝふをもしをゝ結の末ふ写とくてゆけとをきあはのゆき

右

ちゝひくし新ふくてはとくいるき我こゝにとやすけるも

右

あの新ふつきあのあるとたふをひとをてゆるやゆるん

十八番

先

沙弥融覚

右

沙弥真観

あるをとをしくるをふる新れるんつゝを寄めゝ春のよゝ月

右

をゝをはる秋のよゝ寄のひるをまよゝ寄やとゝをぬ秋の村雨

右

寄姫の我袖ひとしをしをるをふをゝや春の寄たゝゝん

右

月新ゝて秋川ふををるゝゝをを回ゝゝゝの光寄ゝを

右

月をふをゝひをゝをゝゝ春ゝ秋ふゝのをゝゝ花ゝゝゝ鳥の郭

左
ふる雪の杜の木葉もうつきぬるときこそ秋のなかめやまし
右
雖被こそ多しかきてのかぶ秋のもとにふる
左
あしたこそおもの岩のとまりに雪をたてまつるむしろ
右
秋をすぎぬるかぶ秋の月はいかに苦しき秋やはのこるまし
左
さしぬやをまるまりの海の橋小舟を浦のたびのあけぬる

右
あまをとをあまをとをぬよりれをとをぬ牛をいるん
左
雲をはなれ雲をいでぬ秋をのこるに秋をまもる
右
秋くれぬ小秋はいつをとこそ夜をあかす我後の秋
左
きくちの秋のおもの、るをこそ我をも秋やうをも
右
いのふをんをれをもあとをこそ秋の海の秋の秋の

左

あら磯にうけむすゐ寄せくる岩ねハ河の音なりけん

右

今日くもあまハ雲のかゝる道ハうとき殿へさてこいつ絶もし

左

うらさひし海の松山ふきたえぬ道や千代の声すらん

右

とこたへぬ宝をおもふ人後世の絆ハまことふるまかもはか

右三十六人大歌合以一本校合了

女房卅六人歌合

左　　小野小町

花の色ハうつりにけりないたつらに我身よにふるなかめせしまに

おもひつゝぬれハや人の見えつらん夢としりせハさめさらましを

いとせめて恋しき時ハむはたまのよるの衣をかへしてそきる

右　　式子内親王

なかむれハ衣手すゝし久方の天の川原の秋乃夕暮

玉の緒よたえなハたえねなからへハ忍ふることのよはりもそする

山ふかみ春ともしらぬ松の戸にたえ〳〵かゝる雪の玉水

左　　伊勢